

平成30年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立那賀高等学校 学校長名： 歌 保晴 印

めざす学校像 育てたい生徒像	「自ら学び鍛える那高生、地域に貢献する那高生」を教育目標とし、その実現につながる教育活動が展開される学校
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 3年間を見通した進路計画とその方策の実施 2 横の広がりや縦のつながりを意識して展開されている教科授業 3 地域貢献につながる特別活動やボランティア活動の実施 4

中期的な目標	1 「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する体制を整えること 2 入学当初の学力に見合った進路実現を果たすこと 3 現在の国際交流事業を維持し、国際理解教育を推進すること 4 コミュニティスクール事業を活用し、地域貢献の量的拡大を図ること
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	本校ホームページHPにより公表

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					平成30年度評価 (2月13日 現在)		
重点目標					評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標			
1	○平成29年度末進路状況 国公立19名、私立161名、 短大16名、専門学校75名、 就職17名、受験準備28名 ○本校の進学先の特徴 看護47(15%) 医療系22(7%) 教育22(7%) (H29年度末) 県内に留まる人材の育成 を意識しておく必要性	①進路指導部⇄担任の 情報共有がなされているか ②生徒の進路意識と学力の 変容は見られたか	①-1 進路指導部で学年係の役割の 明確化 ①-2 時間割内に学年別に担任会議 を設定 ②-1 キャリア発達を促す企画設定 ②-2 模試資料の作成と提供	①-1 進路指導主任及び学年主任 による報告 ①-2 進路ホームルーム等の回数 /担任会議の回数 ②-1 進路計画実施状況の振り返り ②-2 模試成績における経年比較	①-1 達成できた。 ①-2 進路ホームルームは各学年4 回、担任会は各学年原則週1回 開催により、進路内容の周知徹底 や生徒情報の共有ができた。 ②-1 進路行事は1・2年2回ずつ行 い各学年での目標通り系統立て て進められ実施できた。 ②-2 模試分析においては、経年比 較、学校間比較の資料提供。	B	生徒の進路に対する意識向上には一定の成果がある。主体的に学ぶ姿勢は、一部の生徒には感じられるが、依然として低い傾向にある。模試分析にとどまらず、その他の情報も全職員によりわかりやすく資料提供を行っていく必要がある。新1・2年を対象になる大学入学共通テストにむけての対策指導を実施する。
2	各授業は一定の規律のもと行われているが、より主体的に学習に取り組む自律的な学習者を育てる必要がある。	①生徒は学習の意義を理解しているか ②生徒は目的意識を持って授業に臨んでいるか ③生徒は学習内容を定着させているか	①キャリア教育の視点に基づく授業展開 ②各授業において本時のねらいを明示 ③-1 主体的・対話的で深い学びへ誘う授業内容 ③-2 ICTを活用した効果的・効率的な授業展開	①、②生徒による授業評価 ③教員へのアンケート調査	①②授業評価では、授業目標や学習課題がよくわかり、自分から積極的に学習に取り組んでいる割合が高い。 ③授業内容については、ICTやグループワークなどを取り入れ、興味関心を引き出し、幅広い知識や背景が学習できているという評価であった。ICTについては、使用環境が整い、活用方法の研修も重ね、多くの教員が授業内容にあわせて活用できるようになっている。	B	模試の結果を見ると、一時下降した成績に一定の回復がみられる。授業の工夫・改善と学習内容の定着について関連を注視しながら、今後も取組を続けることが必要である。授業内容とともに、今年度から行っている教育課程の改訂についても、主体的・対話的で深い学びにつながるよう、慎重に議論を続ける必要がある。
3	学校行事や部活動、その他自主活動の場が適切に計画され、熱心かつ積極的に参画する生徒が一定数いる。 課題としては、その量的拡大を図っていくことである。	①地域貢献につながる活動の機会 はどれだけ設定されているか ②各取組への参加生徒が どれだけのいるか	①②-1 ボランティア部、特別活動部 ボランティア係からの各種ボランティア案内 ①②-2 体育・文化クラブによる地域 貢献活動 ①②-3 生徒会の働きかけによる地域 貢献活動	①②対象となるボランティア事業数、参加生徒数、参加生徒へのアンケート調査等	①那高祭・那高芸術祭はクラス意識や学校意識を深める機会になっている。 ②小学生学習支援ボランティア活動では参加生徒増加。 ②演劇部による小学校公演が定着 ②JRとの協働企画は4年目を迎え、地域での認知度が高まってきている。	A	ボランティア活動に取り組む生徒を体育・文化クラブ問わずに拡大したい。地域との協働の機会を広げ、企画・立案の段階から参画できる生徒を育てたい。HR活動や部活動を通して、生徒が自分自身をみつめる中で地域とのつながりを意識し、地域に貢献する那高生になる動機付けを十分に行う必要がある。

学校関係者評価	
平成30年2月14日 実施	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>学校関係者評価については、学校運営協議会を核として委員等に校長をはじめ本校職員との意見交換や対話等から評価いただいた。評価結果については次のとおりである。</p> <p>○本校教育目標の一つである「地域に貢献する那高生」を具現化する特別活動やボランティア活動の取組は本年度も優れていた。特に小学生学習支援ボランティア、演劇部による小学校での国語教材をモチーフにしたボランティア上演、放送部とJR西日本との連携事業、那高祭など特色のある取組は地域に根ざし、地域からも高く評価されている。来年度以降もさらに実施方法等を改善しながら「地域に貢献する那高生」の量的拡大を図ってほしい。</p> <p>○本校課題の一つであるキャリア教育について、学校運営協議会支援の元、課題克服に向けた「那高キャリア教育支援授業講師バンク」制度という一つの具体的な事業が実践できたことは大きな成果である。この事業は、人生の先輩たちを学校に講師として招き、その生き方に直接触れる授業を行うものである。これにより生徒は今取り組んでいることが将来どう役立つか知り、今の自分の在り方を考える機会を得、生徒の進路意識向上に一定の成果があったと考える。地域住民にとっても高校生と向き合って話せる貴重な体験ができ、開かれた学校づくりの点でも高評価ができる。</p> <p>○学校長のリーダーシップの元、各教員が熱心に、より主体的に学習に取り組む学習者を育てるために授業改善に努めている。ICTも積極的に活用している。そのため生徒による授業評価も高い。</p> <p>また、本校には部活動や那高祭といった特別活動を頑張る学校文化・生徒文化があり、それらを通して人間形成に取り組んでいる。引き続き教職員一丸となって、生徒の入学当初抱いていた希望進路の実現に向けて、授業改善や効果的な進路指導を地道に実践し、「学び、鍛える那高生」を育ててほしい。</p>	